Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

NEWS

発行部数14万部
非売品（季刊）

2025.1.20 Winter

No. 85

第25回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式

障がい者福祉の新たな歴史を拓いた二人の先駆者

2024年度ヤマトグループボランティアプロジェクト

地域と繋がるボランティア

リレーコラム
夢をつないで
第33回

一般社団法人農福連携
自然栽培パーティ全国協議会
理事長　磯部 竜太

Profile
1976年、愛知県名古屋市生まれ。大学卒業後、青果物流通会社の営業職を経て、2002年に社会福祉法人無門福祉会に入職。2015年より、パーソナルアシスタント青空の佐伯康人氏（第15回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞）の指導のもと、自然栽培による農業を開始。法人全体で、休耕地8haを再生し自然栽培を実施。自然栽培を通して近隣農家や企業、学校とも連携をしている。
（一社）農福連携自然栽培パーティ全国協議会理事長。（社福）無門福祉会事務局長

自然栽培パーティで こどもたちの未来を 明るく

自然栽培パーティは、2015年にヤマト福祉財団の呼びかけでスタートしました。

当初は、障害者の仕事づくりとして、農薬も肥料も使わない自然栽培という付加価値の高い栽培に取り組んでみようという検証事業でした。全国5つの福祉施設が集まり、自然栽培のお米づくりがはじまりました。

農薬、肥料がなくてちゃんと作物が育つのだろうか？障害者が楽しく働くことはできるのだろうか？

そんな心配をよそに、お米は実り、販売もうまくいきました。何よりみんなが楽しく働けることがわかりました。

しかし、それ以上の成果は地域とのつながりが生まれたことでした。みんなでワイワイ作業をしていると、近所の人が声をかけてくれたり、差し入れをくれたり、時々苦情もありましたが、それがきっかけで、今では一緒に作業を手伝ってくれたりと、どんどん地域とつながって、地域も少しずつ変わりはじめました。

私たちはこの活動を「自然栽培パーティ」と名付け、全国に活動を広げることにしました。

現在、参加する施設や農家は140まで増えました。

私は自然栽培パーティを通して、農業、食、環境や地域の課題などより深く考えるようになりました。日本の未来はどうなっていくのか？　未来のこどもたちに安心して暮らせる社会を残せるだろうか？

自然栽培パーティは今、未来のこどもたちのために安全な食を広げ、自然豊かな環境でみんなが生きることを考えられる社会にしたい。今はそんな思いでこの活動に取り組んでいます。

自然栽培パーティは、福祉施設で自然栽培に取り組むこと以外にも、作業を時々手伝ったり、野菜を購入したりと、誰でも参加することができます。

自然栽培パーティが広がることで、日本の農業、地域の暮らし、障害者の生き方、そして日本の未来が変わると思っています。そんな可能性を信じこれからも自然栽培パーティは楽しく歩んでいきたいと思います。

今後とも自然栽培パーティをよろしくお願いします。

※障がいの表記について：本コラムは著者の表記を尊重しています

CONTENTS

表紙写真　第25回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者の賀村 研さん（右）、酒井勇幸さん（左）。日本工業倶楽部の大会堂にて

03 第25回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式
障がい者福祉の新たな歴史を拓いた二人の先駆者

09 2024年度ヤマトグループボランティアプロジェクト
地域と繋がるボランティア
農業編、地域福祉活動編

12 利用者さんの給料アップをめざして
お菓子の販路拡大研究会スタート

13 農福連携実践塾　第3回たまねぎ栽培塾
農業で稼いで、障がいがあっても
社会に貢献できる事を示す

14 自然栽培パーティ　全国フォーラム2024in鹿児島
未来の子どもたちに私たちができること。
自然栽培パーティの農業は地域をつなぐ！

日本障害フォーラムが推進するイエローリボン運動に賛同しています。

第25回
ヤマト福祉財団
小倉昌男賞
贈呈式

障がい者福祉の新たな歴史を拓いた二人の先駆者

ヤマト福祉財団小倉昌男賞は、毎年厳正な審査のもとで2名の方を選考。障がいのある方の仕事づくりや雇用の拡大、労働環境の向上、高い給料の支給などに功績のある方を讃え、今後のご活躍を応援しています。第25回の受賞者は「株式会社カムラック 代表取締役の賀村 研さん」と「社会福祉法人いなりやま福祉会 常務理事の酒井勇幸さん」です。会場にはお二人の関係者や歴代受賞者等、約100名をご招待。晴れの舞台にやや緊張気味のお二人を、あたたかい拍手で迎えました。

前列左から酒井様令夫人 百合子さんと受賞された酒井勇幸さん、賀村 研さんと令夫人 麻里子さん。後列左から野村知司厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部長、山内雅喜ヤマト福祉財団理事長、長尾 裕ヤマトホールディングス(株)代表取締役社長、森下明利ヤマトグループ企業労働組合連合会会長。

「こんな立派な会場でたくさんの方にお祝いいただけるなんて、感動しています」と酒井勇幸さん(左)と賀村 研さん

約100名の参列者が見守る中、贈呈式は滞りなく進行しました

受賞者に贈呈された正賞 雨宮 淳氏作のブロンズ像、賞状、副賞 賞金100万円の目録

Youtubeでライブ配信した
贈呈式の様子は
こちらからご覧いただけます

「賀村さんは、いろいろな企業とコラボし、障がいのある方の自立を支援する環境づくりも進めています」と推薦者・(NPO)コミュニティシンクタンク あうるず 理事 菊池貞雄さん

「ありがとうを言う側から言われる側に。ITを通して障がいのある方が自己肯定できる、そんな仕事を提供していきたい」と賀村 研さん

二人の熱意が、多くの人の心を動かしていった

障害者週間の12月5日、第25回ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式を日本工業倶楽部(東京都)で開催しました。

主催者挨拶で山内理事長は「デジタル時代の需要を見据え、障がいのある方の新たな活躍の場を開拓されている賀村さん。障がいのある方のために60年間、地道に長野県の福祉事業の礎を構築されて来た酒井さん。お二人はともに、障がい者福祉の新たな時代を拓いた先駆者です。私はそれぞれの事業所を訪ねお話を伺い、お二人のあふれるほどの熱意に心を打たれました」と受賞者を讃えています。

選考委員の(NPO)日本障害者協議会 藤井克徳代表は「お二人の共通点は、深いヒューマニズムと〝やればわかる〟と、失敗を恐れず挑戦し続ける姿勢。まさに小倉昌男さんが、常々口にされていた言葉をそのまま実践されています」と選考理由を伝えました。

障がいのある方たちをIT系の活躍人材に育てる

賀村さんは、福岡県で障がいのある方たちがソフトウェアやアプリケーションの検証、プログラミングなどに活躍できる会社を設立。スキルを磨きながらB型からA型事業所へ、さらに一般就労もできるロールモデルを作り上げました。

「私がソーシャルファームのサミットを小倉で開催した際、地元のスタッフは口を揃え、ぜひ賀村さんに講演してもらいたいと言う。その講演に耳を傾けると〝就労支援の本質とは、支援でなくちゃんと仕事を依頼する、一緒に仕事をしていくことにある〟と説かれたのです。しかも提供している仕事が、IT関連だと聞き、福祉の素人の私は二度驚きました」と推薦者(NPO)コミュニティシンクタンクあうるず理事の菊池貞雄さん。

「賀村さんは、メンバーさんが地元アイドルグループのグッズをデザインしていることも情報発信しています。若者などこれまで福祉事業にふれあうことのなかった人々が福祉と出会う最初の入口が、アイドルというのは良いですね。こうして障がいのある方が、社会に必要とされるITの仕事に携わっていることを、より多くの方に伝えています。就労支援でも高い実績を上げる同社の取り組みは、福祉以外のさまざまな業界からも注目されているのです」と紹介しました。

60年間、障がいのある方と親が求める声に応え続けて

推薦者・長野県の千曲市議会議員 前田き

「いろんな障がいのある利用者さんみんなで力を合わせいただいた、とても名誉ある賞です」とうれしそうに話す酒井勇幸さん

「すべての利用者さん親御さんが、酒井さんへの感謝の気持ちを抱いています」と推薦者の千曲市議会議員　前田きみ子さん

「障がいのある方が、より良い働き方、暮らしができるように、制度をもっと充実していきたい」と厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 野村知司部長

「本賞は功績を讃えるだけでなく、これからの活躍への期待の大きさの証です」と（NPO）日本障害者協議会藤井克徳代表

「夏のカンパや賛助会員以外にも私たちにできることを。だれかの役に立つことは心の豊かさにつながります」とヤマトグループ企業労働組合連合会　森下明利会長

「これからも雇用率のアップとともに、お二人のように働きがいも創出できる企業を目指していきます」とヤマトホールディングス（株）　長尾裕代表取締役社長

み子さんからは、お祝いのビデオメッセージが届いています。

「私と酒井さんは、かつて稲荷山療育園で障がいのある子どもたちのリハビリを一緒に行った同僚です。当時から酒井さんは、当事者と親御さんに一番近い視点に立ち、子どもたちの未来を考え、尽力して来ました。親御さんたちから〝学校を卒業した後の居場所がない〟と聞けば、県内初の共同作業所を設立。〝私たちがいなくなった後の暮らしが心配だ〟と言われればグループホームも開設していく。それを療育園で働きながら寝る間も惜しみ、しかも私財を投げ打って実行されたのです」。

その姿に、他の職員や地域の方たちも心を揺り動かされ一緒に行動を開始。まだ障がい者と福祉施設への支援体制が整っていなかった長野県千曲市に、新たな実績を一つずつ積み上げていきました。

「〝福祉は人なり。地域と共に〟。その信念を貫き続ける酒井さんの歩みは、80歳になられても決して止まることはありません」。

一緒に挑戦し続ける仲間と受賞の喜びをかみしめ

お二人には山内理事長から正賞の雨宮 淳氏作のブロンズ像「愛」と賞状、副賞賞金100万円の目録が贈呈され、受賞者を支え続ける奥様方には花束が送られました。続いて3名の来賓から祝辞をいただき、いよいよ両受賞者の挨拶へ。

「こんな素晴らしい賞をいただけたのも、一緒に頑張ってくれているメンバー、スタッフ、そして協力会社のみなさんのお陰です」と賀村さん。酒井さんも「階段を一歩ずつ登るように、みんなで努力し続けてきた結果がこの受賞だと思います」とスピーチ。地元などから贈呈式に駆けつけた施設の同僚や利用者さんたちに感謝の言葉を伝えると、会場からは全員を讃える大きな拍手が…。その響き渡る音に、お二人は改めて喜びをかみしめていました。

カムラックの輪を全国の施設、企業に広げていきたい

株式会社カムラック（福岡県福岡市）**賀村 研**さん

11月22日、「求められれば全国どこにでも行ってお話をしますよ」地域や福祉の枠を超えて走り続ける賀村さんを訪ねました。

今後は海外の仕事も獲得したいと話す賀村さん。複数のPCを使いこなす利用者さんの姿を見ると、その言葉も納得です

就労継続支援A型事業所「Come Luckラボ西新」

就労継続支援A型事業所「Come Luckラボ県庁前」

アイドルのポスターやCDジャケットなどデザインを担当

カムラック大分とモニターでつないで仕事のフォローを実施

就労継続支援B型事業所「ホップ・ステップ・カムラック！」

人材不足に悩むIT業界に障がいのある方たちを

かつて東京のソフトウェア会社で部長を務め、提案営業で辣腕を振るっていた賀村さんは、2009年、「奥さんが故郷・福岡で子育てをしたい」との願いに応え移住します。

「福岡の会社に転職し、IT業界が抱える人材不足は、地方ほど深刻であるとわかりました。そこで僕は、一億総活躍と言われる対象者＝高齢者、女性、障がいのある方に着眼。彼らが社会で必要とされ、イキイキと活躍できるお手伝いができたら素晴らしいと考えました」。

早速、福祉施設に仕事を発注しようと説明しますが「うちの利用者さんには無理」と断られてしまいます。

「私には、福祉施設の職員がITの仕事を理解することや利用者さんの仕事を支援するための工夫を敬遠しているように見えました。そこで自社で就労支援事業をやろうと計画書を作成。でも稟議が通らない。それなら自分で事業所を開設してしまえ！とカムラックを作ったんです」。

IT知識は白紙でいい半年で活躍できる人材に

利用者さんを募集すると、最低賃金で約8時間働け、社会保険も完備された事業所ができたと、たくさんの方がやって来ました。しかし、プログラムやコード作成の知識・技術を持つ人は少数です。そこで企業にマニュアルを提供してもらい、IT知識がゼロの方でも仕事ができるように訓練していきました。さらに仕事をサポートするスタッフと、福祉的ケアを行うスタッフを完全に分業。すべての利用者さんが、存分に力を発揮できる体制を整えていきます。

「利用者さんの練習のため、無料で仕事を受けたこともありました。それも僕の考えに賛同いただいた企業の経営者のご協力もあり、開所当初からしっかり仕事を確保できていたからです。いまでは地元会社のバックオフィスなどの仕事も任せていただいています」。

現在、利用者さんはプログラム開発、データ入力やテスター、ホームページ作成など、さまざまな仕事に従事。職場を訪ねると、一人で複数台のPCを操作し、テキパキと作業する姿は、颯爽として見えます。なかには地元アイドルグループのポスターやCDジャケットなどのデザインを担当する方や月給20万円を超える人も出て来ました。

一般就労もワンステップでこのロールモデルを全国に

「障がいのある方にどんな仕事をしてもらえば…」。カムラックはそんな企業の悩みも解決しています。

「カムラックがその企業の仕事を請け負い、事業所の中で利用者さんの習熟をサポートします。仕事ができるようになった利用者さんは、そのキャリアを持って企業へ就労します。就労したその日からすぐ活躍していけるのです」。

このロールモデルを、賀村さんは全国の施設や企業に発信しています。

「僕は、福祉施設にうちのようになれとは言いません。今後は地域企業がやるべきだと思っています。僕がまだできていないことも可能にできる企業がきっとあるはずですよ」。

大阪や愛媛など、着実にカムラックの輪は広がり始めています。

目は不自由でもやるべきことははっきりと見えていた

社会福祉法人いなりやま福祉会（長野県千曲市）酒井 勇幸さん

11月6日、「利用者さんに一番近い所にいたい」と障がいのある方と二人三脚で60年間歩み続ける酒井さんを訪ねました。

朝8時から、グループホームを回る酒井さん。事業所に通所する利用者さんへの声かけから1日のスタート

就労継続支援B型事業所「いなりやま共同作業所」箱折り・ウエス製造など（左）、オリジナルのサクサクせんべいを製造（右）

生活介護事業所「はなたば」

グループホーム「たんぽぽの家」

就労継続支援B型事業所「満天の星」部品製造・箱折り（左）、千曲染の袋物製造（右）

長野県初の無認可作業所を4人の利用者さんと開設

「おはよう、いってらっしゃい」。

酒井さんの朝は、四つのグループホームを巡り、出勤する利用者さんへの声がけから始まります。スタスタと我々の前を歩く姿は、目の見えないハンディなど感じさせません。

酒井さんは、昭和40年に盲学校を卒業後、稲荷山療育園でリハビリ療法士として勤務。障がいのある方を取り巻く厳しい実情を知ります。

「当時は、障がいが重く歩くことが難しくても車いすはなく、改造したリアカーに子どもを乗せて町まで運んだこともありました。障がい者が町に出かけるなんてと言われましたが、そんなことはないはず。この子たちが大人になった時、どんな生活をするのだろう。そう想像したら、いま動き出さなければと。そこで療育園で働きながら、4人の利用者さん・親御さんと一緒に長野県初の無認可作業所を立ち上げたのです」。

わずか数十円の給料が現在一律3万5000円に

まずは、仕事をして給料を得なければ、と酒井さんが最初に始めたのは、洗濯バサミの組立・販売です。

「でもまったく売れず給料はわずか数十円。これではいけないと、いろいろな会社を訪ねて仕事を開拓していきました。一つうまくいくとそれが人伝えに広がり、次の仕事へとつながる、そんな感じで一歩ずつ売上げを伸ばしていったのです」。

現在は三つの施設で農業、箱折り、部品製造、ウエス・袋物縫製、千曲染、オリジナルのせんべい作りなど、多彩な仕事を用意。職員みんなで話し合い、力を合わせてどんな障がいがある人にも、それぞれに合った働き方や支援方法を工夫しています。ネット販売やふるさと納税の返礼品なども行い、いまでは月額平均給料約3万5,000円を超え、利用者数も約100名に増えています。

「たくさん仕事をできる人もできない人もいますが、額に汗して懸命に頑張っているのは同じです。だから全員一律の給料にしようと決め、そのやり方をずっと続けています」。

親元から自立するためにも複数のグループホームを

次に酒井さんが動いたのは、親亡きあとも自立して暮らしていくためのグループホームづくりでした。

「困っている人が目の前にいるならやるしかないと、借金をしてグループホームを開設していきました」。

最初のグループホームを作ったころ、当時の長野県には十分な支援体制は整っていませんでした。酒井さんは、親御さんと一緒に市の福祉課に通い、いまなにが必要かを訴え、市長にも当事者の声を届け改善を求めました。

さらに酒井さんは、行き届いた支援を実現するには、職員の働く待遇改善も必須だと説きます。「利益はまず利用者さんに、次に職員のために使っていかなければなりません」。

まさに障がい者福祉のあるべき姿、礎を、その手で積み重ねて来たのが酒井さんの60年間の歩みです。

「私は目以外にも病気がありましてね。それは新しいことをやりたくてしょうがなくなる病気なんですよ」。そう笑って話す酒井さんの挑戦に、終わりはないようです。

賀村さんの受賞の言葉

いつも応援してくれている すべての方に「鶴の恩返し」を

株式会社カムラック 代表取締役 賀村 研さん

1995年 日本大学農獣医学部卒、三菱建設株式会社入社。2000年よりIT関連企業に転職。2013年 ITに特化した就労継続支援A型事業所 株式会社カムラック設立。2015年 就労継続支援A型事業所Come Luck ラボ、株式会社else if設立。2016年 特定相談支援事業 株式会社スーパーカムラック設立。
2020年 就労継続支援B型・就労移行支援事業所　ホップ・ステップ・カムラック！開設。2021年 株式会社カムラックフューチャー、デイサービス かむらっきーず開設。2022年 第12回日本で一番大切にしたい会社大賞・審査員会特別賞受賞。2023年 就労継続支援A型・B型事業所Come Luck ラボ西新を開設。

ライブ配信を見ている仲間の感想を聞くのが楽しみ

こんな立派な会場でたくさんの方に祝福いただき、喜びとともに期待の大きさも感じています。本日の贈呈式のライブ配信を、福岡のスタッフやメンバーも見てくれているはずなので、帰ってから感想を聞くのがとても楽しみです。

カムラックのロゴには、社名に込めた「カムオン・ラッキー」の願いを込めた「星」。

そして、応援いただいているすべての方に、いつか必ずお返したいという思いを「鶴の恩返し」の「鶴」で表現し、デザインしています。

カムラックでは、IT初心者もB型事業所で働きながら基本スキルを身につけ、能力が上がれば、よりハイレベルな仕事で力を発揮できるA型事業所にシフト。さらに一般就労も可能にする段階的支援を行っています。また、カムラックキッズでは、未来を担う子どもたちへのIT基礎訓練も行える体制を整えているところです。

このロールモデルを全国の施設や企業と共有することで、障がいのある方がやりがいのある仕事とより高い給料を手にできるようになったら…。それが本賞をいただいた恩返しに、きっとなりますね。

酒井さんの受賞の言葉

夢は叶えてこそ、意味がある この精神を次の世代にも

社会福祉法人いなりやま福祉会 常務理事 酒井 勇幸さん

1965年 長野県立長野盲学校卒、社会福祉法人信濃整肢療護園分園稲荷山療育園就職（2003年まで勤務）。1980年 任意団体 いなりやま福祉会発足。1981年 長野県初の共同作業所 いなりやま共同作業所開設。2003年　社会福祉法人いなりやま福祉会設立、理事長就任。2004年 知的障害者通所授産施設 満天の星開設。2005年 グループホーム こんぺいとう 開設（以降2009年たんぽぽの家、2015年 ふっくら、2022年いなほ開設）。2007年 いなりやま共同作業所を多機能型事業所に移行。2011年 満天の星を就労継続支援B型に移行。2017年 生活介護事業所 はなたば開設。2019年 社会福祉法人いなりやま福祉会理事長退任、2021年に常務理事就任。

福祉はボランティアじゃない 職員の待遇改善も忘れずに

ヤマト福祉財団さんの運営は、ヤマトグループの労働組合のみなさんのカンパなどから成り立っていると知り、うれしくなりました。じつは、私は稲荷山療育園の職員時代に「より良い福祉サービスは、職員の生活を守ってこそ実現できる」と、この世界では珍しい労働組合を結成。執行委員長を務めていたこともあったんですよ。

私は、新しいことに挑戦したい、やると決めたら達成しないと気が済まない、そんな性分です。現在も新しい事業所の開設を推進中です。ただ資金が足りないため、また銀行のお世話になることに。幹部のなかには、お金が貯まってからにしては、と躊躇する者もいました。

でも「借金をどんどん返していこうと頑張っていれば、逆にお金は貯まっていくものだよ」と説得しました。いまではその幹部がだれより率先して頑張ってくれています。

これからいなりやま福祉会を担う彼らに、私が教えてあげられることはそう多くありません。ただ、利用者さんのために自分たちになにができるか。夢は見るものではなく叶えるものという姿勢は、継承してもらいたいと願っています。

2024年度 ヤマトグループボランティアプロジェクト

地域と繋がるボランティア

ヤマト運輸労働組合と財団が連携し、ヤマトグループ社員が地域の障がい者施設と繋がり、交流を深めていくボランティアプロジェクトも4年目を迎えました。今年度は農業編として青森県、茨城県の障がい者施設で実施。地域福祉活動編の「ヤマト繋がるプロジェクト」は、ヤマト運輸労働組合青年部のみなさんとアクションポート横浜が繋がり、障がい者のみなさんに楽しんでいただく企画を実施しました。

農業編

地域福祉活動編

ヤマト繋がるプロジェクトとは？

社会人と学生が繋がり、オンラインも活用したボランティアイベントをゼロから企画・運営するプロジェクト。地域の福祉に関わりその輪を広げていきます。
同プロジェクトは、NPO法人アクションポート横浜とのコラボレーションによるものです。アクションポート横浜は、大学生を始めとした若者が中心となりNPOや企業、団体と連携しながら地域の課題解決に繋がる活動に取り組んでいます。

2024年11月2日　NPO法人農楽郷（のうがっこう）ここ・カラダ

1日の作業となるニンニクの芽出し作業を、青森支部が1時間で完了！！

青森県十和田市にある「農楽郷ここ・カラダ」に集まったヤマト運輸労働組合青森支部のみなさん23名。秋のボランティアはサツマイモの収穫の予定でしたが、温暖化のためサツマイモの成長が予定していたより早いため、残されていた収穫もあっという間に終わってしまいました。

次にお手伝いしたのは、ニンニク畑に張ってあるマルチで、穴の横から出たり曲がっている芽を真っ直ぐに出してあげる「ニンニクの芽出し作業」です。しゃがんで一つひとつ芽を探しながら出していく作業は、足腰にも辛い作業。でも、利用者さんが1日かかる作業をなんと1時間で完了。青森支部の坂井委員長は「この繋がりを大事にしたい。今日、芽出し作業を行ったニンニクの収穫にも来たいと、みんなが言っている」と話します。

「収穫は楽しい、無心でできる」と口々に話す支部のみなさん。地元の農楽郷ここ・カラダと新しい繋がりができてきそうです。

DATA　NPO法人農楽郷ここ・カラダ（青森県十和田市）

ニンニクを中心として、サツマイモやシャインマスカットの生産に取り組んでいます。主な取引先は「星野リゾート青森屋」。利用者さんは定員20名、月額平均工賃35,000円。農業を楽しむ郷と書いて、「農楽郷ここ・カラダ」と命名したと言います。

2024年11月9日　（株）百笑会 まめの木農園（茨城県石岡市）

人の力ってすごい！ 6畝の予定が茨城支部で16畝を収穫完了！

茨城支部の組合員とそのご家族25名がまめの木農園に集合。春のジャガイモの収穫に続いて、秋はサツマイモの収穫ボランティアです。

「学校や保育園でも、芋掘り体験がなくなって、今回はこのボランティアを楽しみにしていた」という小沼SDのご家族も、大きなサツマイモの収穫を思いっきり楽しんでいます。

まめの木農園さんは「みなさんにお手伝いいただいて、6畝ぐらい収穫ができたらいいな」と考えていたそうです。ところが、途中で仕事を終わらせることのできないヤマト魂が…！

畑に残っていた16畝を全部収穫してしまいました。いつもの利用者さんとの作業と比較し、約6倍の仕事量です。まめの木農園さんも「人の力ってすごい！」とビックリ。

大滝委員長は「来年も苗を植えて収穫をお手伝いする計画を立てています。これからまめの木農園さんと長いおつきあいをしていきたい」と挨拶をされ、具体的に打ち合わせを進めるそうです。

DATA　株式会社百笑会 まめの木農園

無肥料無農薬の自然栽培で、サツマイモを始め、ジャガイモ、ネギなどを栽培するまめの木農園。収穫された農作物はJAの直売所や地域のスーパーで販売しています。利用者さんは定員15名。他にも地域の名産である栗の収穫など施設外就労も行っています。

ヤマト労組青年部と大学生、地域の福祉施設がコラボして今年度も実施！

横浜市内で障がいのある方やお子さんたちと楽しく交流する地域イベントが11月に催されました。プロジェクトは3つの企画チームがアイデア出し～当日の運営まで、みんなで協力しあって実現させたものです。楽しい時間を通じて、多くの気づきも参加者にもたらしてくれたようです。

うちわを仰いでカラフルで賑やかな空間を楽しもう！

連携施設：東戸塚地域活動ホームひかり
コーディネーター：とつか区民活動センター
（11/6 会場：東戸塚地域活動ホームひかり）

ネコをテーマに、組合青年部はオンラインで、参加者とコミュニケーションを取りながらみんなでうちわを作成。戸塚区のキャラクター「うなしー」も登場し、飾られたうちわを手に、音楽に合わせて遊びました。

シーツにペイント！
～世界に一つだけのテーブルクロス・ランチョンマット作り～

連携施設：NPO法人こんちぇると
コーディネーター：野七里地域ケアプラザ
（11/16 会場：さかえ福祉活動ホーム）

不要になったシーツにペイントを思い思いに施し、テーブルクロス、ランチョンマットに甦らせました。途中にはクイズコーナーもあり、完成した作品は、その後、実際に施設で利用されています。

みんなで繋がる宝探し

連携施設：横浜市都筑区地域訓練会とまとのおうち・バナナのおうち
コーディネーター：都筑区子育て支援センター Popola
（11/23 会場：都筑区役所6Ｆ 多目的スペース）

組合青年部やPopolaの子どもたちが事前にアルミホイルで作成したキラキラのお宝を、隠し場所であるボールプールや段ボールのトンネルから見つけ出します。ミッションをクリアすると宝をくれる「お宝マン」も登場しました。

利用者さんの給料アップをめざして

お菓子の販路拡大研究会スタート

昨年の10月7日、第1回お菓子の販路拡大研究会（会場：（社福）共生シンフォニー／滋賀県）に全国から10名の研究生が集まりました。2年間で利用者さんの幸せを実現するために工賃アップをめざします。

「菓子製造・販売」を共通項に

昨年10月、財団の新しい事業として販路拡大研究会がスタートしました。この研究会は第10回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者の中崎ひとみさん（（社福）共生シンフォニー理事長）を座長とし、「菓子製造・販売」を共通項に、全国の福祉事業所から応募を募り、約50名の応募者から選ばれた10名の研究生が学び合う場です。

小倉初代理事長の唱えた「1万円からの脱却」が原点

財団が1993年に設立して3年目の1996年、障がい者の給料が月1万円だったことに憤りを感じた小倉初代理事長は「障がい者施設の運営には経営視点がない。自分は福祉は素人だけれど、何十年もやってきた経営なら教えることができる」と、「1万円からの脱却」をめざし小規模作業所パワーアップセミナーを始めます。これが、財団が行っている塾や研究会の源流です。

販路拡大研究会も、最終的な目的は「障がいのある方の幸せの実現」です。そのアプローチの手法として、施設で作っているお菓子の販路を拡大し収入をあげ、利用者さんの給料アップをめざします。研究会は教えてもらう場ではなく、研究生の施設をはじめ、さまざまな事例から学び、2年間で成果を出していきます。

ファーストステップは事業計画

座長の中崎さんは、事例としてがんばカンパニー※の成長の過程を、仕入れ販売のみで2000万円を出していた時代から現在の1億5,000万円の売上や、施設の規模、利用者人数と併せながら説明し、まずは、数字を把握し事業計画を立てることがファーストステップと話します。

研究生は、がんばカンパニーの工場を見学しながら、利用者さんの動きや動線、設備に、「参考にしたい」と写真やメモを取り、持ち帰りました。彼らの新たな気づき、目標に向かう行動が成果に繋がることを期待します。

※（社福）共生シンフォニーのお菓子工場、毎日約1トンのクッキーを製造

第2回Hi-roshimarkt開催　11月30日 スパイラルガーデン大州

「つながる」をテーマに19事業所が出展、マルシェの販路拡大で工賃アップへ

福祉事業所で製造している自社商品の販路拡大に向けた取り組みに挑戦し、ともに成長していきたい有志を広島県内で募集、地域での認知度を高めることを目的にマルシェを展開しました。

Hi-roshimarkt（ヒロシマルクト）は「hiroshima（広島）」とドイツ語で市場を意味する「markt（マルクト）」を掛け合わせた造語。「Hi」は利用者さんたちが作る高品質な商品を販売するハイスペックな市場をめざすという意味が込められています。

2回目の会場となったスパイラルガーデン大洲は、1週間前にオープンしたばかりの新たな商業施設。広島県内の19事業所が来場者への声かけやSNSを積極的にフォローし、雑貨、Tシャツ、折り紙アクセサリー、無添加酒粕生石鹸、コーヒー、パン、イタリアンジェラート、チョコレート等々、対面で販売することで商品の良さをアピールしました。また地元のテレビ、ラジオ、雑誌、フリーペーパーに取り上げていただき、その結果、来場者は前回を上回る1000人超が参加、全体で約80万円を売り上げました。

目的は利用者さんの工賃アップ。単なるマルシェではない、「Hi-roshimarkt」が、広島と言えば「カープ」「宮島」「平和公園」に、「Hi-roshimarkt」が加わることを夢見て、実行委員会も取り組みに力が入っています。

農福連携実践塾

第3回
たまねぎ栽培塾

農業で稼いで、障がいがあっても社会に貢献できる事を示す

11月15-16日、(社福)ゆずりは・菜の花(群馬県前橋市)で、最終となる第3回たまねぎ栽培塾を開催しました。

プログラム1日目は、ぶどう栽培塾塾長の林博文氏(第16回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞)が「農業に特化して工賃向上をめざす」をテーマに講義を行いました。次に塾生12名の成果報告、種苗メーカーのカネコ種苗さんの講義を実施。翌日は、実技研修として、たまねぎの苗を掘り定植を行いました。

仕事を農業1本に

林博文塾長は、(NPO)ピアファームで梨やぶどうなど果樹栽培を中心に取り組み、平均工賃6万円超の実績を続けています。講義の中で「農業で工賃向上するためには、設備投資が必要。仕事は農業1本に絞り、利用者さんが働くことに集中してもらうための環境をつくる。品質の良いものを作って、売り切る」と話します。

塾生発表では、1年間の取り組みで、利用者さんにどのように取り組んでもらうか、支援の苦労や、栽培に必要な機械を確保した苦労などを交え、種蒔きから苗を作り、定植するところまでの成果を報告しました。収穫・成果の発表は12月を予定しています。

種から育てた苗を定植できる大きな一歩

たまねぎ栽培塾塾長の小淵久徳氏は、塾の最後に「自分もたまねぎ栽培を始めて7～8年、最初は失敗の連続で苗を育てているのか、草を育てているのかわからなかった。定植時期が遅れてしまい大きいたまねぎにならないという経験もした。みなさんは1年目から、種から育てた苗を定植するところまで行き着いている。成果が見えるみなさんの一歩は大きな一歩だと思う。農福は稼げないと言われているのを、自分たちで稼いで、障がいがあっても社会に貢献できる事をみなさんで地域に示して頂けたら嬉しい」と、メッセージを伝えました。

自然栽培パーティ 全国フォーラム2024 in 鹿児島

未来のこどもたちに私たちができること。自然栽培パーティの農業は地域をつなぐ！

自然栽培に取り組む仲間が年に一度集まり、日々の成果を発表、経験をシェアする「全国フォーラム2024」。今回も収穫を祝うお祭り「新嘗祭」に合わせて11月23日に開催されました。

ご講演をされた汐見稔幸氏

自然栽培パーティ流「新嘗祭」で盛大に

2016年から毎年開催している「全国フォーラム」。本年度は鹿児島中央駅に直結した「ライカ南国ホール」に、全国から170名の参加者が集いました。

自然栽培パーティは、無農薬・無肥料の自然栽培に障がいのある人たちとともに励む団体・個人のつながりです。ヤマト福祉財団はパーティの設立当初より支援をしています。

フォーラムの前日には、全国で行っている自然栽培のモデルとなる畑づくりの一つ、「農園づくり in 鹿児島」にて、そばの収穫や玉ねぎの植え付けを実施。50名ほどの参加者が、農福師（農業で楽しく働く利用者）とともに汗を流し、畑作業の楽しさを実感したようです。

フォーラム当日は祭りをイメージした趣向を凝らし、全国で採れた野菜をのせた神輿がオープニングに登場しました。

他にも農福師オリジナルおみくじなどが配られ、にぎやかで楽しい会場となりました。

食と大地が支える人の営み

今大会のテーマは「未来のこどもたちに自然栽培パーティができることを考える」。

挨拶に立ったヤマト福祉財団・山内理事長は「人間が生きるとは食べていくこと。その根源的なところに、自然の大地を踏みしめて生きていくという自然栽培パーティの活動はつながっている」と同会のいっそうの活躍に期待を寄せました。

教育学が専門の汐見稔幸氏の講演では「同会の活動が障がい者の自立だけではなく、今後の社会に重要な役割を担ってくる」とエールとともに示唆に富む話が伺えました。

全国の事例発表「農自慢」では、農福師の自慢話で盛り上がるだけでなく、農福師がこどもたちにお米づくりを教える取り組みや、自然栽培パーティの野菜が学校給食に採用されたことなどが報告されました。会の締めくくりは、半農半歌手として活躍するＹａｅさんのライブで会場は一体に。心に響くフォーラムとなりました。

自然栽培パーティ塾に7施設参加中！

2024年5月の北海道、6月に愛知で実施された「自然栽培パーティ塾」。自然栽培に関心を持つ新たな7施設を対象に、実際の畑作業や工賃向上の取り組み、食の安全についての講義を催しました。7施設は11月のフォーラムにも参加し、農福連携の輪は現在進行形で拡大中です。

YWF TOPICS

JDF全国フォーラム

JDF20周年の歩みと未来への展望
障害者権利条約のめざす社会の実現に向けて

JDF全国フォーラムが2024年12月9日、戸山サンライズ（東京都新宿区）で開催されました。

JDFは設立時から障害者権利条約批准に向けて国連での交渉や、国内制度改革への取り組みなど、さまざまな活動に取り組んできました。日本が障害者権利条約を批准したのは設立から10年目の2014年。日本政府に対して総括所見が出されたのが2022年です。

フォーラムの中で20年の活動の変遷を写真と共に報告。また「障害者分野の近未来を占う　障害者権利条約のめざす社会の実現に向けて」というテーマでJDF副代表の藤井克徳氏と国連障害者権利委員会委員（2025年～）の田門浩氏による対談も行われました。

最後に、JDF副代表の竹下義樹氏が、「社会が進化・変化していく中で、障害者の暮らしやすさ、生きやすさをどう創り出していくか、みんなと一緒に次の10年をめざしたい。日本政府の第2回目のレポート提出、あるいは我々がパラレルレポートを提出する際に、それを報告できるような運動をやっていくことが重要な課題」とフォーラムの総括を行い、閉会となりました。

この権利条約に関わるJDFの取り組みを、ヤマト福祉財団は設立から支援を続けています。

20年間の支援への感謝状を頂きました

全Aネット　就労支援セミナー inさっぽろ
これからの人口減少時代におけるA型の役割

昨年10月12日、札幌で全Aネット（（NPO）就労継続支援A型事業所全国協議会）の就労支援セミナーがオンラインも含めて約220名が参加して開催されました。

就労継続支援A型事業所の状況として、昨年の報酬改定の変更（制度の変更）により、利用者さんと雇用契約を結び最低賃金を保障するA型事業所の経営が厳しくなっていることや、多くの事業所が閉鎖されたことがあげられます。

全Aネットの調査によると、報酬改定では運営がしっかりと行われている事業所はプラスの収益となり、これまでギリギリで経営してきた事業所は廃業したりB型に移行するなど2極化した状況が見えてきました。

セミナーでは、株式会社インサイト代表取締役の関原深氏による「継続できる正しいA型の経営」というテーマで、事例を挙げながらの講演。続いて関原氏と（NPO）ストローク会理事長の村木太郎氏による記念対談では、関原氏の講演をさらに掘り下げた内容となりました。

挨拶に立った財団の山内理事長は「報酬改定など、いろいろ難しい面も出てきていますが、大きく言うと障がいのある方を取り巻く環境・方向性が良い意味で前に進んでいるように思います。世間から注目されることで厳しい目が注がれますが、より前進できるというチャンスです。みなさんと一緒に頑張って参りたいと思います」と、メッセージを送りました。

農福経営実践塾募集！！　募集締切 1月31日（金曜）

農業を事業とする施設の責任者等を対象に、利用者の工賃・給料アップを目的とする実践塾を開講します

開講期間：2025年4月～2027年3月（2年間）
参 加 費：無料（交通費・宿泊費は全額財団で負担）
募集人数：最大12名
応募について詳しくは財団ホームページをご覧ください

ヤマト福祉財団 News No.85
1月20日発行 2025 Winter
公益財団法人ヤマト福祉財団

Information of the Art

ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト

《人頭の鳥で表されるバーの護符》
おそらく前305～前30年

《動物文の壺》
前3300～前3100年頃

《人型棺の右目》
前1539～前30年頃

《神官ホル(ホルス)のカルトナージュとミイラ》
前760～前558年頃

《ネコの棺とミイラ》
前664～前332年

《ネフェレトイティ(ネフェルティティ)王妃のレリーフ》
前1353～前1336年頃

掘り起こせ、三千年の謎

悠久のときを経て届く、美しき遺物たち

紀元前、ナイル川のほとりに栄えた古代エジプト。長いその歴史の中で彼らは、太陽暦やヒエログリフ、ピラミッドなど高度な文明を育みました。そこに宿った大いなる神秘と謎は、現代の我々に解き明かされるのを今も待っています。この冬、そんな古代エジプトの貴重なコレクションが日本にやってきます。

米国でも屈指の歴史と150万点もの多彩なコレクションを有するニューヨークのブルックリン博物館(Brooklyn Museum)。古代エジプトにまつわる収蔵品の充実ぶりでも知られます。

本展覧会は、同博物館が誇る古代エジプトコレクションから名品をピックアップ。彫刻、棺、宝飾品、陶器、パピルス、そして人間やネコのミイラなど約150点の遺物を通して、私たちの想像を超える高度な文化を生み出した彼らの営みをひも解きます。

古代エジプトの息吹を五感で感じ、探求せよ！

謎に満ちた三〇〇〇年をともに旅する案内人は、今注目を集める気鋭のエジプト考古学者・河江肖剰さん。氏は3D計測を用いたピラミッド研究のトップランナーです。

古代エジプトの人たちはどのような暮らしを営み、何を畏れ、何を書き残したのか。ピラミッドはなぜ、どのように作られたのか。ミイラに託したメッセージとは…。一般にはあまり知られていない事実から最新技術を使ったピラミッド研究の成果まで、映像や音声も交えてご紹介します。

ヤマト運輸株式会社は本展作品の輸送・展示に協力しています。

作品はいずれも、ブルックリン博物館蔵
photo：Brooklyn Museum

DATA

開催期間 ▶ 2025年1月25日(土)～ 4月6日(日)
休 館 日 ▶ 無休
開催場所 ▶ 森アーツセンターギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)
アクセス ▶ 東京メトロ日比谷線 六本木駅(1C出口)より徒歩約3分(コンコースにて直結)
都営地下鉄大江戸線 六本木駅(3出口)より徒歩約6分
都営地下鉄大江戸線 麻布十番駅(7出口)より徒歩約9分
東京メトロ南北線 麻布十番駅(4出口)より徒歩約12分
東京メトロ千代田線 乃木坂駅(5出口)より徒歩約10分
※六本木ヒルズ森タワー3階に「美術館・展望台チケット／インフォメーション」のカウンターがあります。ご入館は、専用入口「ミュージアムコーン」をご利用ください。

開館時間 ▶ 月～木・日 10:00～18:00
金・土・祝前日 10:00～20:00 ※入館は閉館30分前まで
観 覧 料（税 込）▶ 前売券(平日／土日祝)

一般／大学・専門学生	¥2,300／¥2,400
高校・中学生	¥1,600／¥ 1,700
小学生	¥1,000／¥ 1 ,100

※障がい者(障がい者1名につき介護者1名含む)は無料　※土・日・祝日は日時指定制。 ※障がい者手帳をお持ちの場合でも、ご鑑賞にはチケット購入が必要です。ただし介助者1名は無料。各種手帳のご提示が必要です。
※高校生以下は学生証など年齢がわかるもののご提示が必要です。 ※未就学児は無料。 ※前売券は、11月21日(木)～1月24日(金)まで販売。

主 催 ▶ ブルックリン博物館、朝日新聞社、東映、日本テレビ放送網
協 賛 ▶ 鹿島建設、DNP 大日本印刷
協 力 ▶ 名古屋大学、日本航空、一般社団法人 Platoo、ヤマト運輸、World Scan Project
問い合わせ先 ▶ 050−5541−8600(ハローダイヤル)
巡回情報 ▶ 静岡県立美術館(予定)　2025年4月19日(土)～6月15日(日)(予定)
豊田市博物館　2025年6月28日(土)～9月7日(日)

ケーキ販売にご協力いただきありがとうございました

2種類のアレルゲン不使用のケーキで、アレルギーに悩まれる方も一緒に楽しんでいただけましたでしょうか。おかげさまで昨年12月に販売したクリスマスケーキは74,863個になりました。
ヤマトグループのみなさま、毎年のご協力に感謝申し上げます。
みなさまに喜んでいただけるケーキやパンづくりに心を込めて。
お近くのスワンをどうぞよろしくお願いいたします。

株式会社スワン

VEGETABLE OIL INK
つたわるフォント 読みやすさを追求した書体

詳細情報・最新情報は https://www.yamato-fukushi.jp/
ご意見、お問い合わせは y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp まで